

エ、エイリーク様……!!
やはりこのような
ことは……っ。

動かないで
くださいゼト、
これは主君の
命令ですよ……。

これまで私を守り、
教え導いてくれた
武功の礼がしたいのです……。

ドキッ

ドキッ

フー

フー

キュン

ぷりんっ

キュン

キュン……

だ、だからといって
このような……!!



ふふっ、でもあなたの
ここはこんなには
ち切れそうな程
大きくなっていますよ……♡

(すごい……これが
男の人の……♡
こんなに大きく
なるんですね……♡)

も、申し訳ありません……
貴方様の、
その、はだけた姿を
見てしまい……。



ほ、ほらっ……♡
男の人はこんな風に
男性器を手で
シコシコと擦ると
気持ちがいいん
ですよね……♡

エ、エイリーク様……
どこでそのような
知識を……。

もうっ、私だって
王女とはいえ
年頃の女性なんですよ！
こういう知識
ぐらいい然と覚えます！
（本でしか見た事
ないけど……）



ど、どうですか……？
気持ちいいですよ？
なんだかビクビク
してますけど……♡

あつ……♡
そ、その……もう少し
先端の方を……いって
頂けると……♡

あつ……
は、はい……♡
こう……ですか？♡

(ううっ……拙い動きとはいえ、
エイリーク様に手淫して
頂いているという状況が……
否応にも興奮してしまう……♡)



エ、エイリーク様……
そ、そろそろっ……!!

え……?
そろそろって……

も、申し訳
ありません……っ!
エイリーク様の手や
お顔にお目汚しをっ……。

だ、大丈夫ですよっ……
これが……
精液……
男の人の……
ゼトのザーメン……



ほらっ……♡
主君の体を
汚したのですから、
罰を受けないと……♡

エイリーク様……
やはり、このような
ことは……

もう……
まだ言うんですか、
ゼト……

もしかして、
私の体では興奮
できないのですか……？
このような
貧相な体では……

な、なにをつ……！
そのようなことは
決して……！

ならば、お願いです……
どうか私の気持ち
を受け入れてください……
せめて……せめて
今夜だけは……
今夜だけは……っ。

エイリーク様……



ここまで来ましたら
覚悟を決めさせて
頂きます……。

ゼト……♡

本当は……本当は私も、
貴方とこうして身体を
重ね合わせることを
夢に見ておりました……。

ああ、嬉しい……♡
ゼト……どうか私の純潔を、
貰ってください……♡

その、エイリーク様……
痛ければすぐに
仰ってください。

だ、大丈夫です……
どうか、そのまま、
一気に……





エイリーク様……!!
大丈夫ですか……!!?

は、はいっ……♡
これくらい、
なんてこと、
ないですっ……♡

それよりも、
嬉しいです……♡
ようやくあなたと
一つに繋がれて……♡

エイリーク様……♡



エエ
イリ
ー
ク様
……
！
♡

ぜんっ……♡
つてば、♡
い……♡
激し……

申し訳ありませんっ……♡
貴方様のそのような顔を
見てしまうと、
抑えが……! ♡

あつ……♡
いいですよっ……♡
もつと激しく……♡
もつともつと……♡
おちんちんください……っ♡

エイリーク様……っ、
そろそろっ……！♡

はい……♡
そのまま中に……っ♡

私のまんこの中に
まっ白な精液を
注いでくださいっ
……♡



うふふっ……♡
いっぱい……♡
出ましたね……♡

ああ、エイリーク様……♡
申し訳ありません……♡
つい中に……っ。

くすっ♡こんなに
中に出して……♡
これで私達、
立派な恋人
同士ですね……♡
ちやんと責任
とつてくださいね……♡

うふふっ、このことは
兄上にもしつかり
報告しておかなくては……♡

は、はい……。
甘んじて
受け入れます……。



























